

©創通エージェンシー・サンライズ

**MG**  
MASTER GRADE

創通エージェンシー  
サンライズ  
0055164

MG 1/100 GELGOU MOBILE SUIT  
ZEON DUKE CUSTOMIZABLE



**BANDAI**



MOBILE SUIT  
MS-14S

# GELGOOG

ZEON DUKEDOM CAZNABLE'S  
CUSTOMIZE MOBILE SUIT

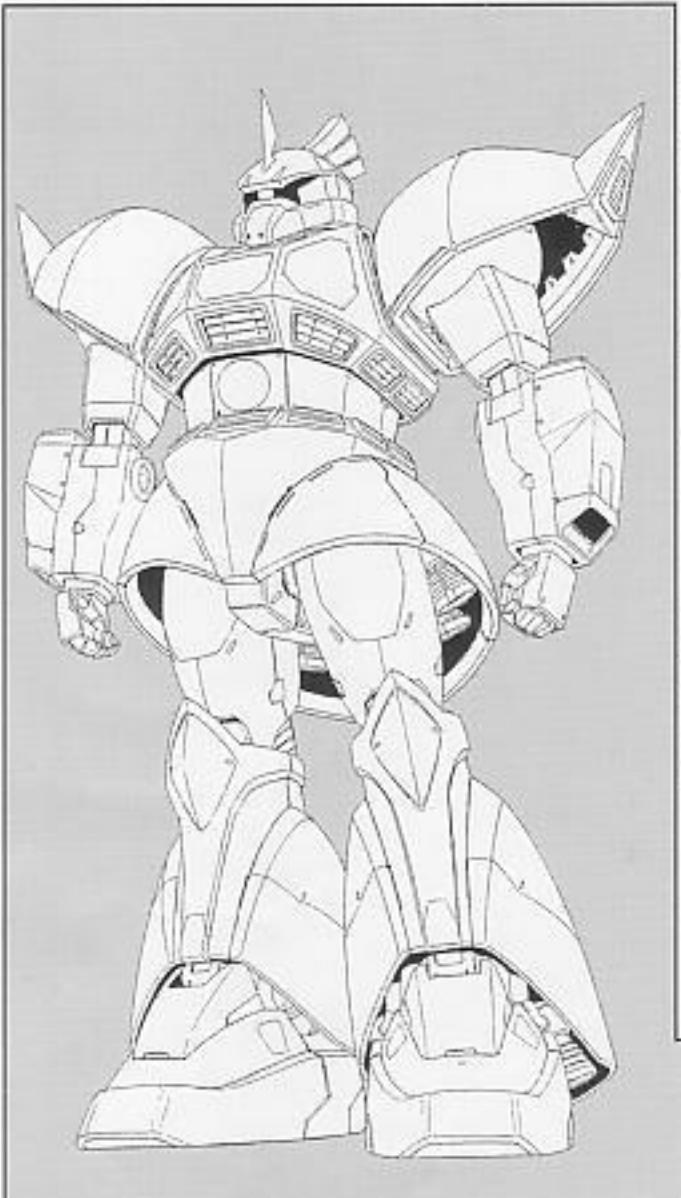


BANDAI 1996 MADE IN JAPAN

ジオン公国軍 汎用モビルスーツ 初期生産型  
MS-14S 「ゲルググ」  
シャア・アズナブル大佐機  
1/100SCALE  
マスターグレードモデル

Scanned by DaLong.net





ゲルググの開発当初のコードナンバーはMS-11であり、もともとはMSの運動性の向上を主眼として開発されていた（この機体は、後に、アクトサクと呼ばれるテストヘッド機となった）。これは、対MS戦闘を想定したものではあったが、「ガンダム」の出現によって、対MS戦闘には単純な白兵、格闘能力以上のものが必要とされることが明らかになった。そのため、MS開発計画は軽率にされ、武装も含めた総合性能の向上が計られることとなつた。

南極条約によってNBC兵器が禁止されていたため、使用可能な最強の武装はビーム兵器であった。両軍共に宇宙艦艇へのメガ粒子砲搭載は完了していたが、連邦軍はMSにビーム兵器を持たせることに成功した。これは、計り知れないアドバンテージであった。結局、MS戦におけるビーム兵器の構成は不可欠なものとなってしまったのである。事実、ゲルググに前後して開発された機体は、ビーム兵器の装備を前提に開発されているものがほとんどであり、MSであろうとMA（モビルアーマー）であろうと、なんらかのビーム兵器を装備している。公国軍にとって「ガンダム」が脅威であったのは、その機体が、圧倒的な運動性と戦闘並みの破壊力を併せ持っていたためなのである。

次期主力MSにはビーム兵器の装備が必須だった。しかし、公国軍におけるビーム兵器の小型化は難航していた。ゲルググの先行量産型がロールアウトしたのは10月に入ってからだが、ビーム兵器の生産ラインが実働し始めたのは11月下旬だったと言われている。しかし、この機体の開発が成功したことによって、公国軍は連邦軍と互角以上の戦力を投入することが可能となった。そして、MS-14の開発が終了した段階で、各地のMS生産設備の多くがMS-14の生産に振り替えられることが決定していた。そのため、各地の工場では生産が可能なバーツから先行して生産されており、このことからも、MS-14は、公国軍の次世代主力MSとして、多大な期待を抱いて開発されていたことが判る。

この機体は、まず量産先行機として25機ほど生産された。それらはYMS-14とも呼ばれ、DBR系の機体がそうだったように、いわゆる各部隊のエースパイロットのもとに配備された。25機のうち1機はシャア・アスナブル大佐に、他の機体の多くはエース部隊に配備されたと言われている。

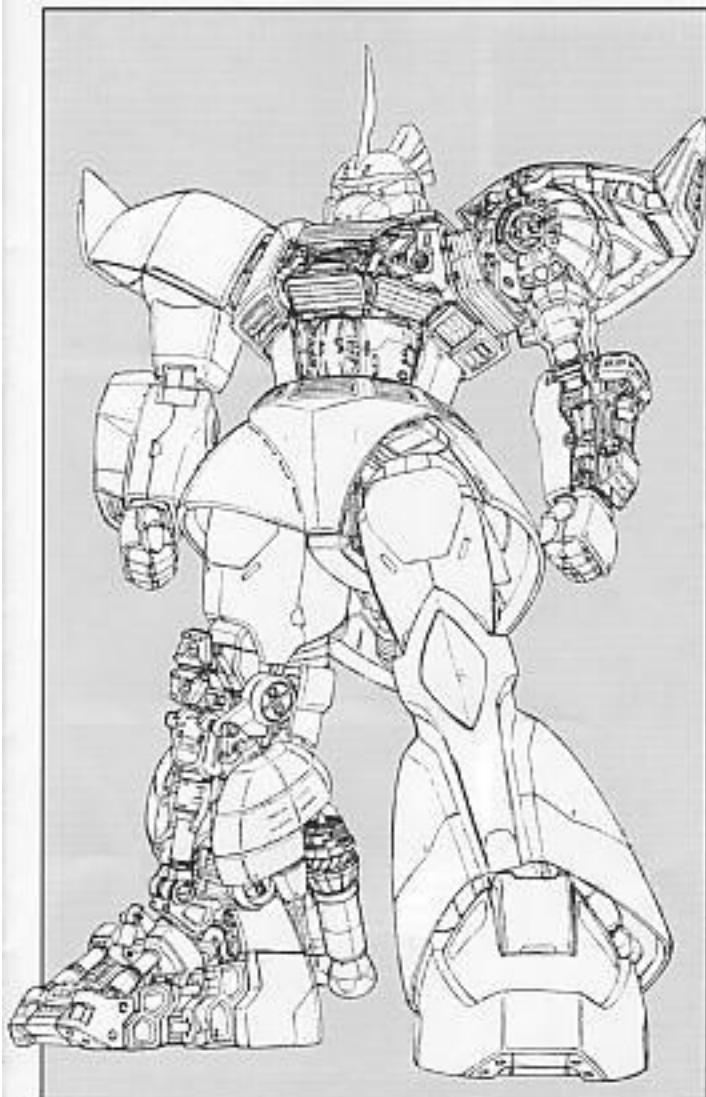
## MS-14S GELGOOG



MS-14ゲルググは、MS-06ザクIIの後継機として、また、公国軍におけるMSの新たな標準機として開発された機体である。公国軍の汎用量産MSにおいては、初めてビーム兵器を標準装備とし、一年戦争期間中に量産されたMSの中では最高の完成度を持つ機体であると評価されている。

「ゲルググ」は、言うまでもなく連邦軍が開発した「ガンダム」や「ジム」を強く意識した機体である。それゆえ、開発の前提としてビーム兵器の搭載が検討され、ビーム兵器の稼働に対応した高出力のジェネレータと、高い近接戦闘能力を有している。つまり、対MS戦闘を本格的に想定した機体であり、近接戦闘、白兵戦闘能力に加え、ビーム兵器の標準装備によって、長距離戦闘にも対応する事が可能である。何よりも、そのビーム兵器の威力は絶大であり、戦闘並みの破壊力をこの機体にもたらしている。

MS-14（というより次期主力MS）の開発計画そのものは、一年戦争のかなり早い時期から存在していたものの、高度な汎用性の獲得やビーム兵器の開発の遅れなどのため、実戦に投入されたのは一年戦争末期となった。そのため、基本性能ではジムを大きく上回るにも関わらず、パイロットの養成や生産、配備が間に合わず、あまり大きな結果を挙げることはできなかつた。しかし、その基本性能は、一説によれば「ガンダム」に匹敵しており、優秀なパイロットのもとに適正に配備されていれば、あるいは、ルウム戦役に至る戦闘において、ペテランパイロットの多くを喪失していかなければ、一年戦争の結果は異なったものになっていたらうとも言われている。



## MS-14S メカ部透視図

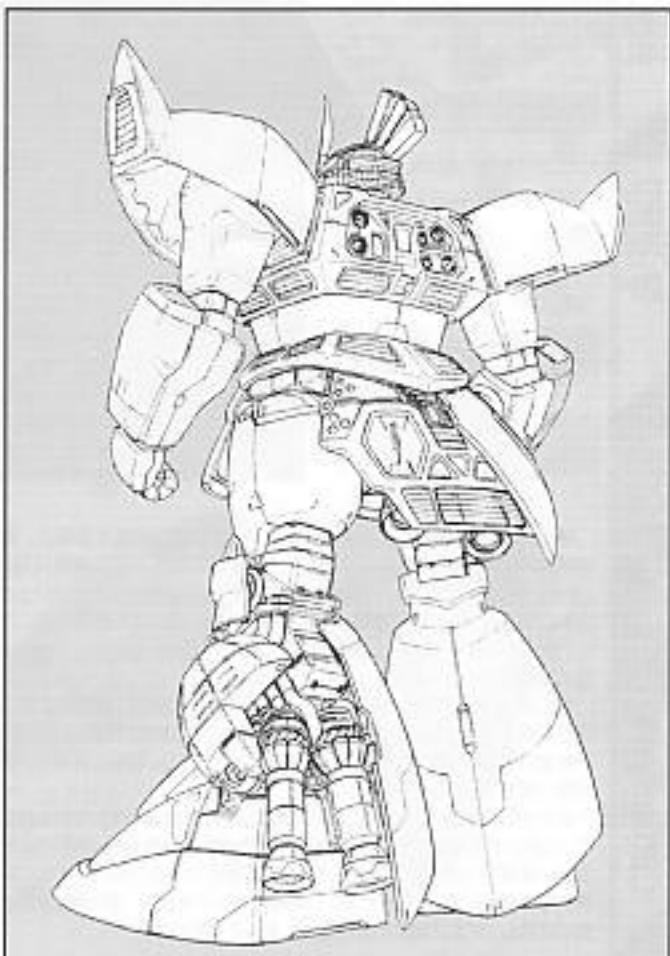
一年戦争中期、次期主力空間戦闘用MSとして公国軍に提出されたプランは、ザクの最新型であるP-2タイプ。ドムの空間戦闘仕様のR09 (09R) タイプ。さらに新設計のMS-11だった。この間、連邦軍のRXタイプの出現のため、軍の要望として「ビーム兵器の搭載可能なMS」という新たな要素が加わり、MS-11計画はMS-14にスライドし、白兵、相間に主觀を置いたMS-15ギャンと競作されることになった。MS-15は、その運動性に関しては高い評価を得たが、空間戦闘能力や汎用性、さらに、ビームサーベル以上のビーム兵器をドライブできないジェネレータなどに問題があったため、MS-14が次期主力MSとして量産を前提とした開発がすすめられることになった。(もっとも、この時期になるとメーカー間によるコンペティションなどもほとんど形骸化しており、MS-14とMS-15の競作にしても、単なるセレモニーに過ぎなかったと言われている)。

MS-14の開発ベースとなった機体は、MS-06R-2や06R系の最終型であるMS-06R-3、MS-11などであった。そしてゲルググは、これらの開発に従事していた技術者たちを糾合して開発された機体であり、公国軍のMS担当官が直接指揮をとって開発にあたっていた。実際、MS-14の基本的なアビオニクスはZEONIC社のものだが、装備されるスラスター類はZIMMAD社の技術が採用されており、MA用を開発していたMIP社なども、ビームライフル開発の際にMS開発局に導入され、同系統の機体をOEM生産している。さらに、各部品の調達の都合によって、各メーカーは独自のライセンス生産も行うようになっていった。ゲルググは各部が独立した構造となっていたため、生産自体もブロックごとに開発することが可能だった。だからこそ、頭部や脚部は先行して部品の供給がなされ、短期間で量産することができたのである。

先行量産された25機のMS-14は、YMS-14とも呼ばれていた。これは、複数の部局で並行して開発を行っていたために便宜上付けられた呼称であった。そして、オプションの高機動型ブースターパックを装備したタイプのものはMS-14Bと呼ばれ、ノーマルな機体と区別されていた。そして、さらに開発の遅れていたビームライフルの代わりに、水陸両用MSのビーム砲の技術を応用したバックパック方式のビームキャノンを装備したタイプも存在し、その機体はMS-14Cと呼ばれている。そのせいで、ノーマルな機体をMS-14Aとする表記も見られた。さらに、先行量産の機体はエースバイロットを中心に配備されたため、(特に赤く塗装された機体などは)MS-14Sと呼称されることもあった。これなどは、開発される機体によっては、担当技術者が複数のプロジェクトに関わっているような事が頻発したために起きた混乱でもある(特殊なMSを開発していた複数のMS-16計画や、ゲルググとギャンのハイブリッドタイプであるMS-17、白兵能力をさらに強化したMS-18計画なども同時に進行していたのである)。

ゲルググは、ザクと同じく、それ以上の汎用性を持たせることができたため、最小限のオプションで多様な戦術に対応できるよう設計されている。事実、当時の公国軍は、ゲルググの陸戦への投入も想定しており、頭部に補助推進器としてのジェットエンジンが装備されていた。これは、先行量産型の運用によって、コロニー内戦闘に有効であることが判明したため、後に本格的量産がなされた機体からもオミットされることはない。事実、地球上で最後まで抗戦を続けたアフリカ戦線において、実際に陸戦用の改修を受けたゲルググが数機、実戦に投入されている。

一年戦争末期の傑作機MS-14ゲルググは、先行量産型の生産に前後して、いわゆるAタイプが83機、Bタイプが67機、Cタイプが15機生産され、実戦に参戦していたとされる。ただし、これらの数値はいくつかの資料の平均値であり、実戦時、122機分に相当するDタイプの未組み立てパーツが存在すると記録された資料も存在する。特に、ビームライフルの搭載を見送り、分割して作られたパーツをベースとして独自の機体に組み上げた工廠もあったため、開発が戦争末期であったにも関わらず、多くのバリエーションが存在するのである。



Explanation

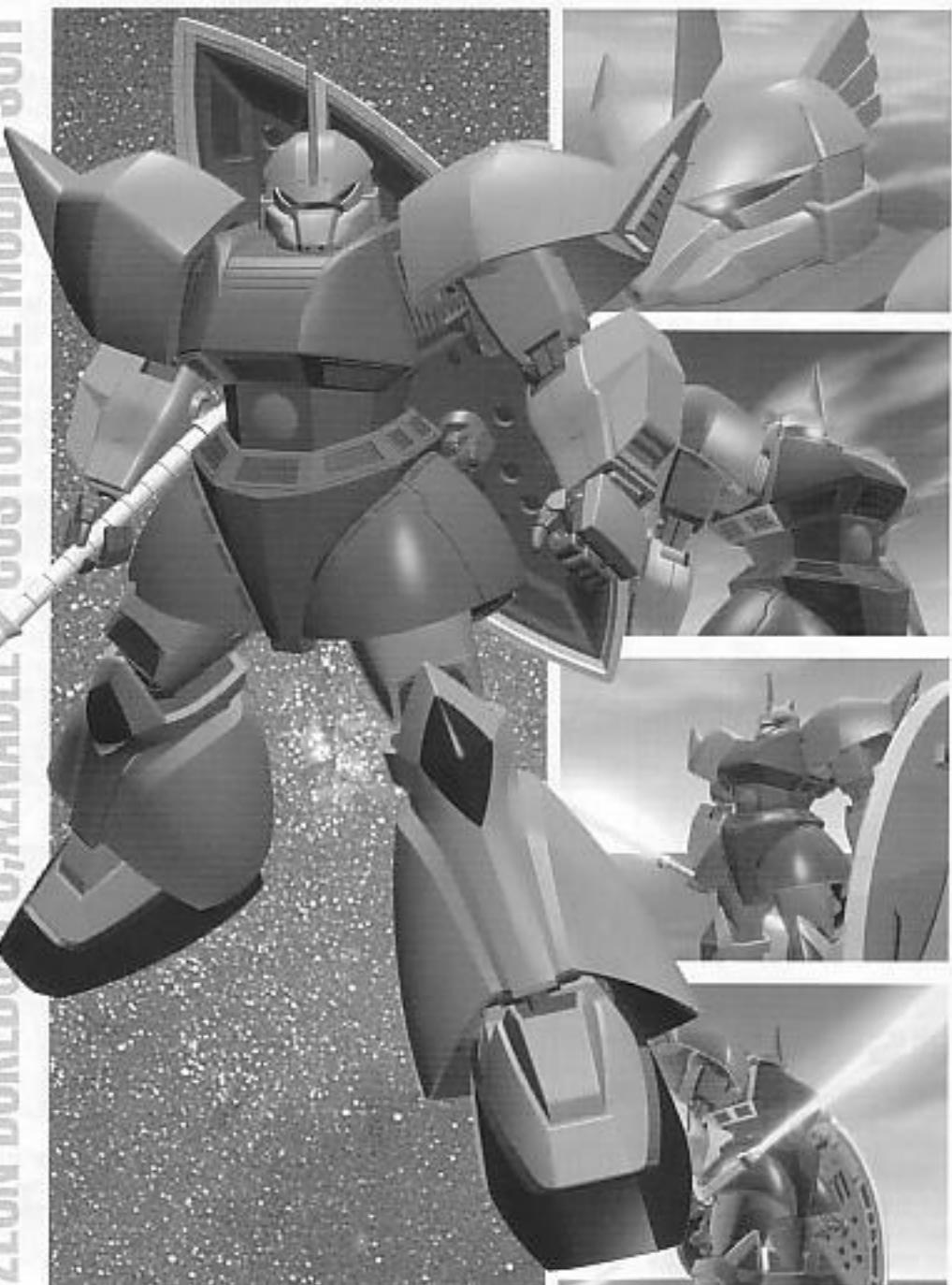
Parts name  
of MS-14SMS-14S  
Snap ShotHead &  
Arm UnitLeg &  
Weapons

Body

Final Assemble  
& Parts List

# MS-14 GELGOG

ZEON DUKEDOME CUSTOMIZE MOBILE SUIT



宇宙世紀0079年。宇宙植民都市サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。公国軍は巨大な大型の機動兵器MS(モビルスーツ)を投入し、宣戦布告と同時に地球周辺のラグランジュポイントに浮かぶ7つの宇宙植民都市のうち、サイド1、2、4を襲撃した。さらに「ブリティッシュ作戦」と呼ばれるコロニー落としを敢行し、地球にも甚大な被害をもたらした。

その後、サイド5宙域で行われた「ルウム戦役」に至り、結果的に総人口の約半数を喪失させた両軍は、大量殺戮兵器(主にNBC兵器)の使用禁止や捕虜の処遇などを取り決めた「南極条約」を締結し、戦争は長期化。膠着状態に陥っていた。

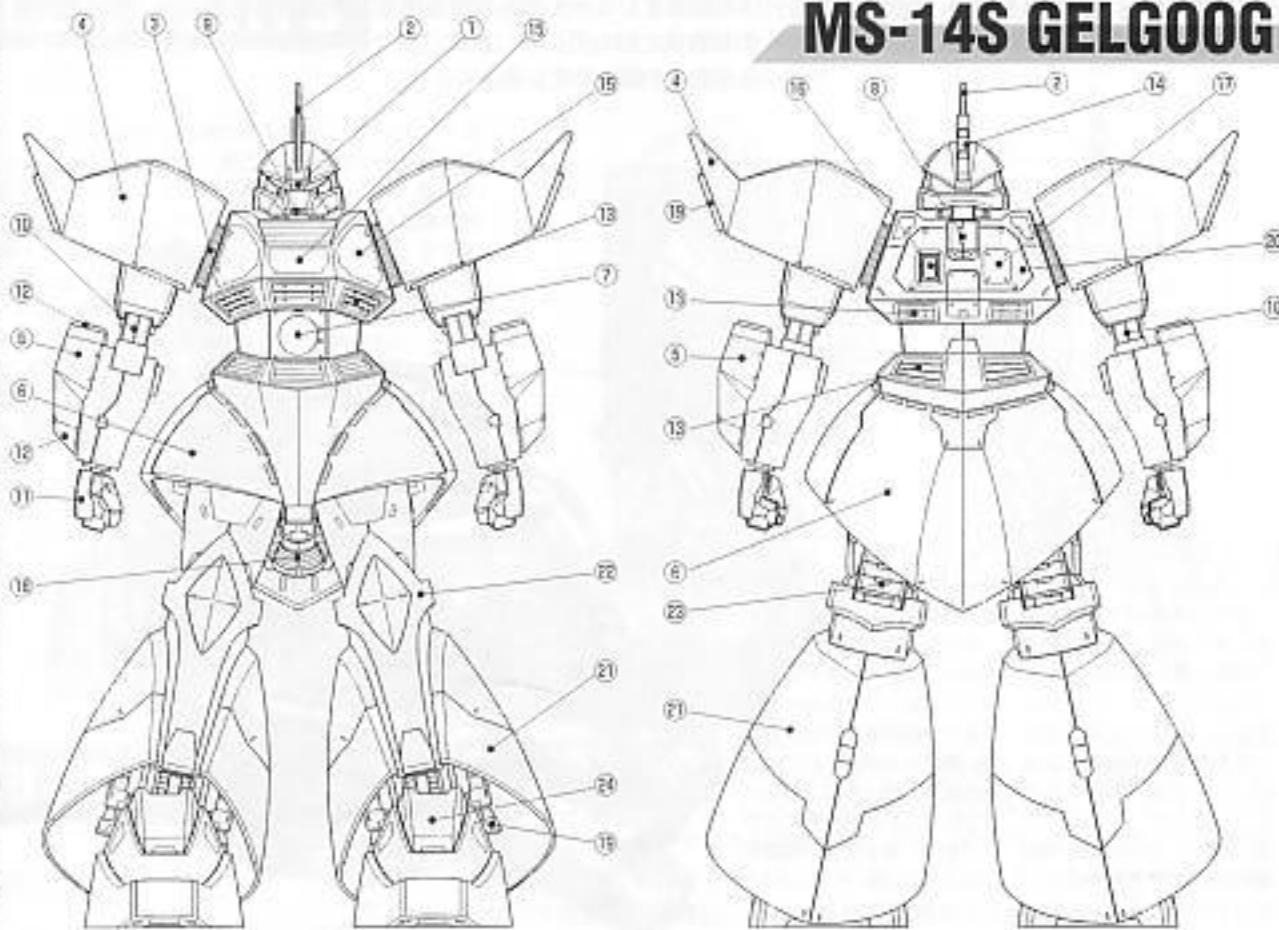
戦局を打開すべく、連邦軍もMS「ガンダム」を開発。残存兵力を結集して、公国の支配地域において大規模な反対作戦を展開した。実質的に地球上の公国軍勢力を瓦解させた「オデッサ作戦」や、連邦軍の本拠地に公国軍が攻め込んできた「ジャブロー攻撃作戦」などを経て、連邦軍はMSの量産に成功し、ジオン公国本国に攻めこまんとしていた。

「一年戦争」末期に実戦投入されたMS-14ゲルゴグは、この期間に量産されたMSの中で、もっとも優秀な機体のひとつと言われている。連邦に先んじてMSの開発に成功した公国軍が、連邦軍の開発した「ガンダム」に対抗すべく、その威信をかけて開発したこの機体は、あと一ヶ月配備が早ければ、歴史を塗り替えていただろうと讃えられている。

既存のノウハウを全て投入し、ビーム兵器の携帯という新たな難題をクリアしたこの機体は、単独での大気圏突入こそできないが、一説には「ガンダム」をも超えたと言われる。攻守共にバランスのとれた設計で、ザクをはるかに上回る汎用性を獲得しており、オプションの換装も容易で堅健性も高く、ほぼ無調整で重力下の稼働も可能であったと言う。

実際にこの機体が戦闘に参加したのは戦争末期の約一ヶ月間だけだったため、戦局に与えた影響は微々たるものだった。しかし、シャア・アズナブルやアナベル・ガトー、ジョニー・ライデンなど、幾人かのエースパイロットが駆ったことでも知られている。また、その完成度の高さから、後のMSに与えた影響は計り知れないものがある。

# MS-14S GELGOOG



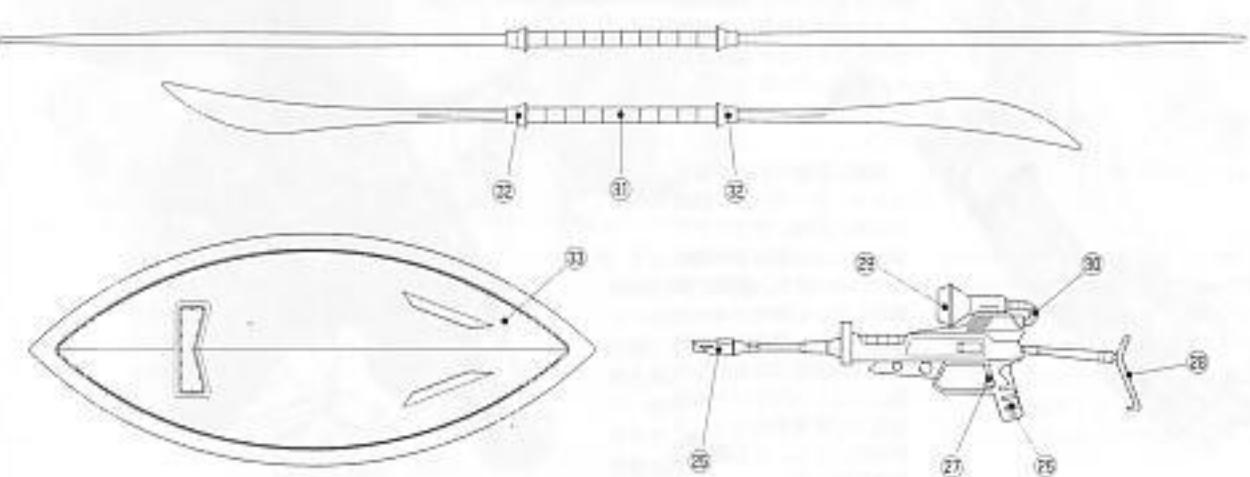
①モノアイカメラ  
②マルチブレードアンテナ  
③ショルダージョイントアーマー  
④ショルダーアーマー  
⑤熱核ジェットユニット  
⑥スカートアーマー  
⑦コクピットハッチ  
⑧タッチャブルホルダー  
⑨マルチブルダクト  
⑩エルボージョイント  
⑪マニピュレーター  
⑫インテーク／ノズル  
⑬ダクト  
⑭ハイブリッドセンサー

⑮メンテナンスハッチ  
⑯オプションポート  
⑰エクストラポート  
⑱メインスラスター  
⑲サブスラスター  
⑳バックパネル  
㉑レッグスカートアーマー

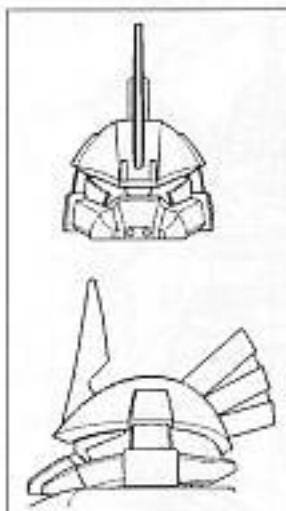
㉒ニージョイントアーマー  
㉓ニージョイント  
㉔エクストラポート  
㉕マズル  
㉖グリップ  
㉗トリガー  
㉘ストック

㉙ターゲットセンター  
㉚テータ／パワーサプライヤー  
㉛ビームハルバートユニット  
㉜マルチビームジェネレーター  
㉝シールド

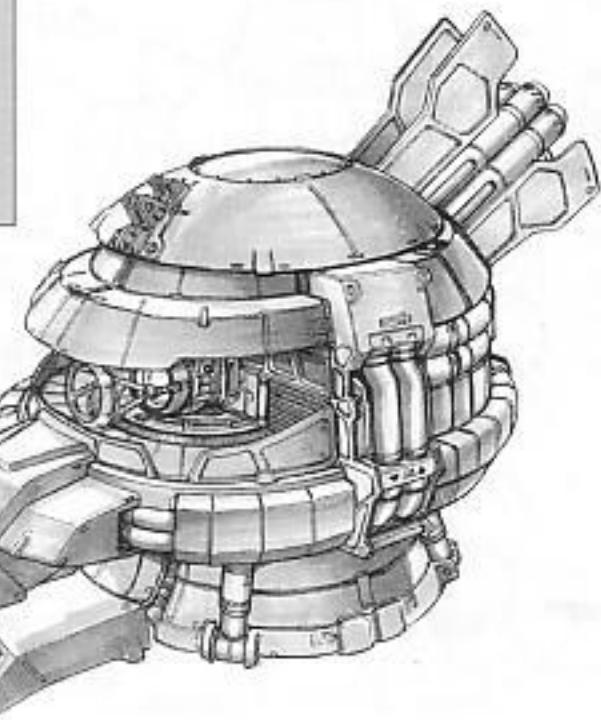
注) この機体は、先行量産された25機のうち、シャア・アズナブル大佐が受領したものです。この機体はテキサスコロニーにおいて実戦投入され、ア・バオア・クー攻防戦まで使用されました。



## HEAD PARTS



MS-14の頭部モジュールは、指揮官機並みの通信機能を持ち、高性能なセンサーの複合体となっている。また、ザクでは露出していた動力伝達パイプなどの各部品を内装としている。



MS-14 ゲルググの頭部 耐久性が向上している。は、基本的にザクの構造を 小型化、高密度化したものであるといえる。俗に「口」と呼ばれていたマルチブル ノズルから後頭部にいたる 動力パイプは、外装の内側 にコンポーネントされている。これは対MS戦の、特に 格闘戦における対策として 採られた措置で、耐弾性と

さらに、量産効率によって 各種センサーのコストや歩留まりが安定してきたため、これまでには指揮官機クラスの機体に優先して搭載されていた 高性能センサーやコンピュータフレームが標準装備とされたことで、基本性能が飛躍的に向上している。

## MOBILE ARM UNIT

MS-14の腕部モジュールは、基本的にMS-11計画時にはほぼ完成していたが、ビーム兵器の運用や地上での稼働という条件が追加されたため、多くの追加装備が施されている。



ゲルググの各間節部分に採用される駆動装置は、ザクと同程度の能力でさらに小型化、高密度化されている。機体そのものの反応速度が改善されているため、機体の運動性も飛躍的に向上している。ただし、ビーム兵器へのエネルギー供給系統なども内蔵されているため、全体的なボリュームはほとんど変化していない。

肩部に装備されているショルダーアーマーは、間節の保護と同時にサブスラスター・コニットとしても機能している。また、腕部に装備されている熱核ジェットユニットは、基本的に地上戦用の装備ではあるものの、コロニー内など大気が存在する無重量領域での機動性向上においても非常に有効であった。



## 注意

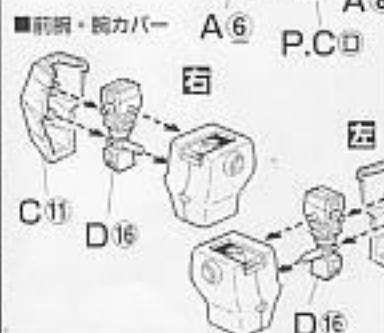
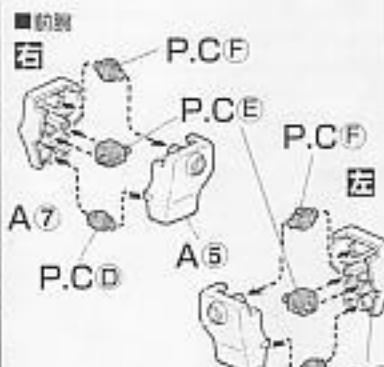
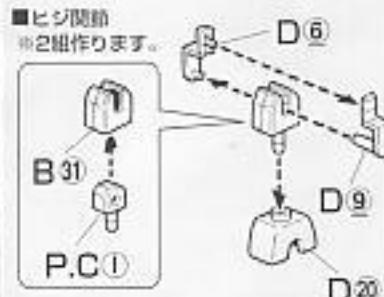
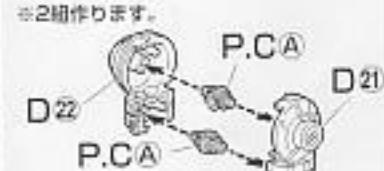
### 必ずお読みください

- 小さな部品があります。口の中には絶対にいれないでください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 接着剤を使用するときは、接着剤の注意書きをよく読んでご使用ください。

### 組み立てる時の注意

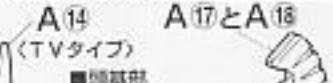
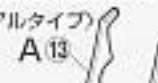
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

このキットには接着剤は入っておりません。ディティールアップパーツを接着する場合にはプラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。



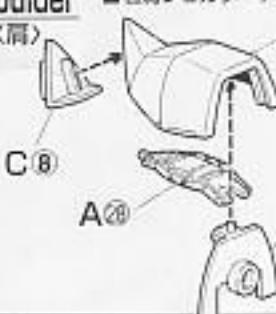
### 1 Head

アンテナは、選択式（リアルタイプ）です。好みのアンテナを取り付けてください。



### 2 Shoulder

■右肩ショルダーアーマー

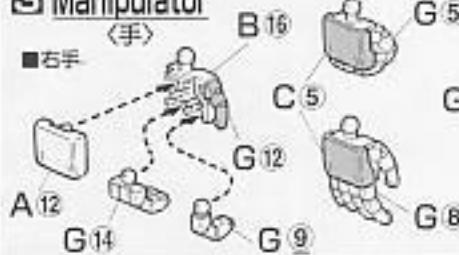


■左肩ショルダーアーマー

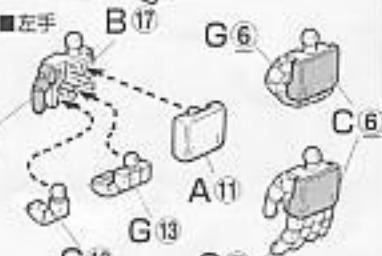


### 3 Manipulator

■右手

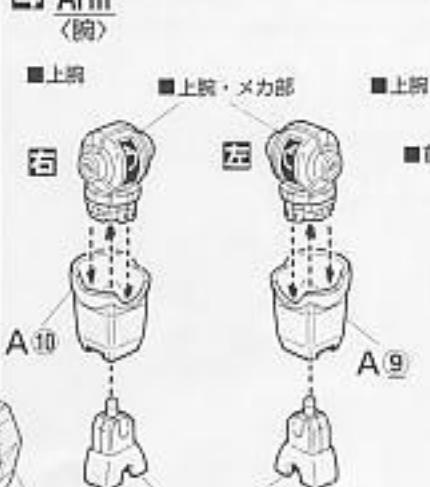


■左手

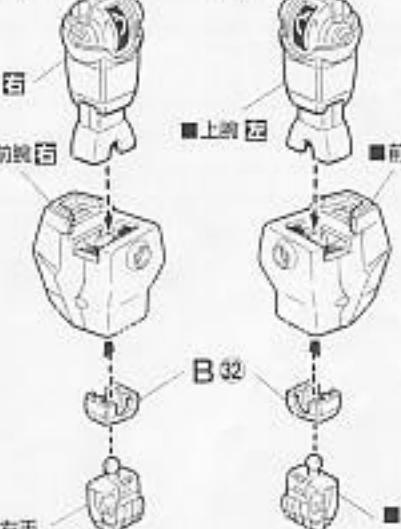


### 4 Arm

■上腕



■前腕

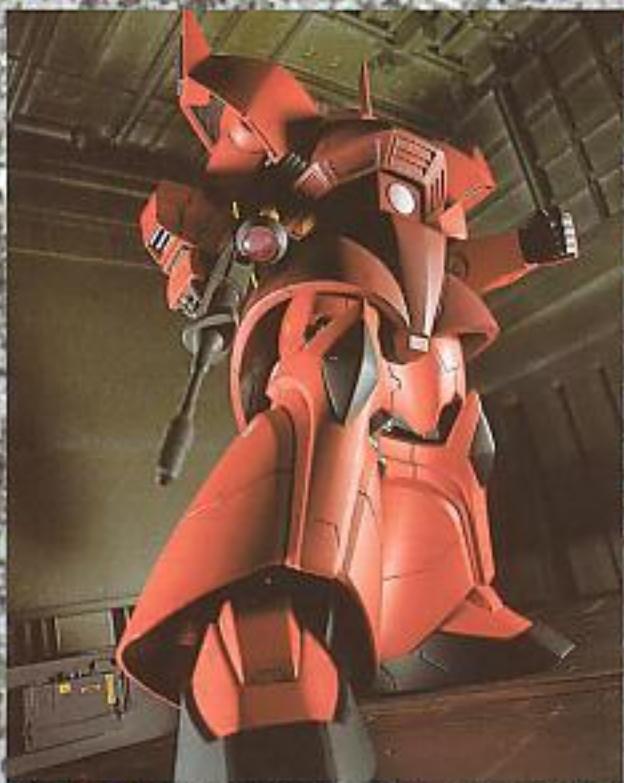


## YMS-14 GELGOOG

簡略化した戦線の拠点に局地戦用モビルスーツの開発配備をするというジオンのモビルスーツ技術上の戦略思想からザクの純粋な後援機としての次期主力モビルスーツが実現に配備されたのは戦局も複雑った大戦末期の事であった。開発技術陣に譲せられた課題は連邦のモビルスーツ同様にビーム兵器を標準装備とするという点であり、この条件を満たすために機体のベーシックな開発構造を大幅に上回る時間が費やされた。結果的に先立ちYMS-14として完成した初期生産型25機は直ちに戦場に送られることとなった。

## TEXAS COLONY

初期生産型25機の内の1機はジオンのトップエース、シャア・アズナブル大佐に送られてアーヴィングベース直撃戦で運用試験を兼ね、実戦に臨んだ。初期生産型はいすれもパイロットに適じたチューニングが施されたと言われているが、同種にどのようなチューニングが施されたかは定かではない。マ・クベ大佐が戦死したチカスコロニーでのガンダムとの遭遇戦では確たる戦果をあげるには至らなかったが、これが調整不足の為か、ガンダムハイロードのニュータイプとしての算段によるものかは意見が分かれることである。



## L-MES & KNIGHT

ニュータイプの存在自体に感動的であった連邦に対し、ジオンは早くからキシリヤ少将を中心に戦闘に於けるその特性が研究され、結果、生還率において特異点を示す者を素養ありと認めフランガン機関と呼ばれる組織に送りこんだ。ララ・スン少尉はフランガン機関でも特に傑出した能力が認められ、ソロモン衛星で隊員の戦果をあげソロモンの亡魂と恐れていた。しかし、精神的に安定した状態にあって初めてその能力を発揮できるニュータイプにとって助けるシャア大佐の姿は實に心強い活劇であり、若き少女の娘もMAとエースパイロットの忠い機体は互いに不可分の存在として後々まで語られる事となる。

## MARKING

シールドには特殊印刷で、マークを印刷。塗装する方には、同デザインのガンダムデカールをセット。部隊マークや注意書き等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。



## DETAIL UP

1/100MS-14G ゲルグをさらにリアルに仕上げたい方は、14ページを参考にして、ディテールアップパートを接着してください。

ディテールアップ用のパーツを接着する場合には、接着剤の付けすぎに注意してください。

## FRONT VIEW



## PAINTING

よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。

接觸には、より安全な「水性塗料」を使用をおすすめします。

脚、脚、頸部などの塗装色。  
ホワイト(50%)+レッド(25%)+イエロー(25%)

本体側面などの中塗り色。  
マルーン

本体胸中央部やヒザなどの塗装色。  
ブラック(70%)+ホワイト(30%)

各部アーマーの裏面などの塗装色。  
ブラック

ビームライフルなどの塗装色。  
鋼鉄色

ビームナギナタやシールド外側などの塗装色。  
イエロー(70%)+黄緑色(30%)

## MAINTENANCE MODE



頭部のモノアイ基部等のメカニズムを再現。

動力パイプはメッシュパターンのパイプパーティを使い、リアルに再現。



B型装備(MS-14B)のバックパックや脚部バーニアノズル等の動力部をリアルに再現。

## Explanation

## Parts name of MS-14S

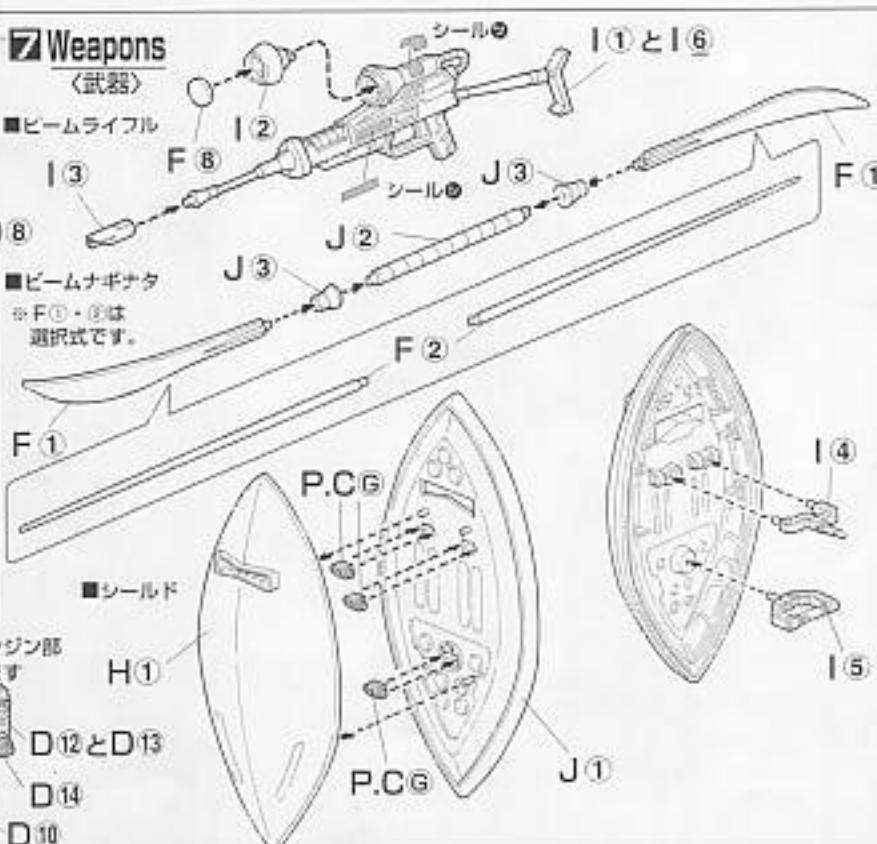
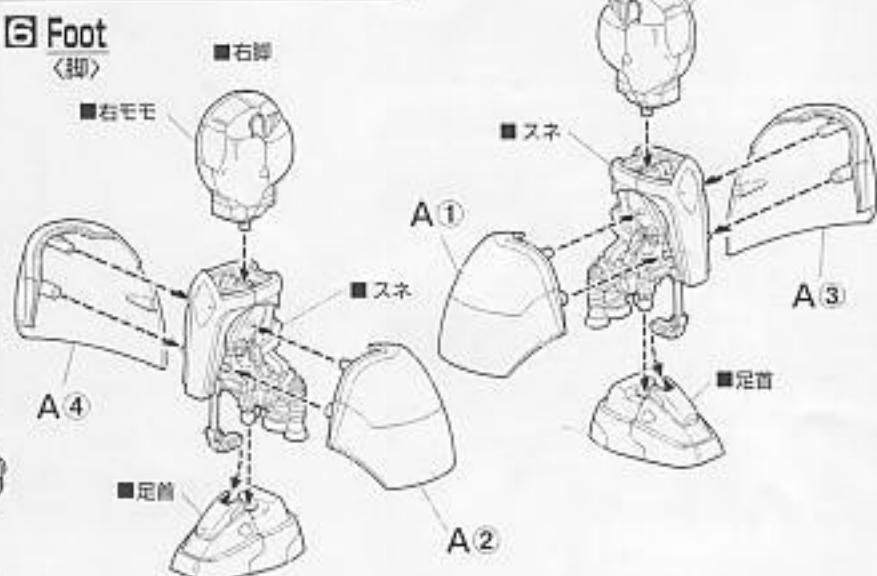
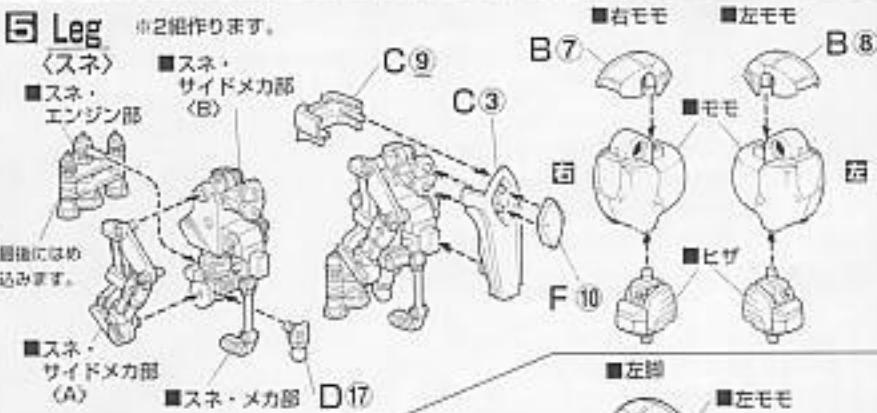
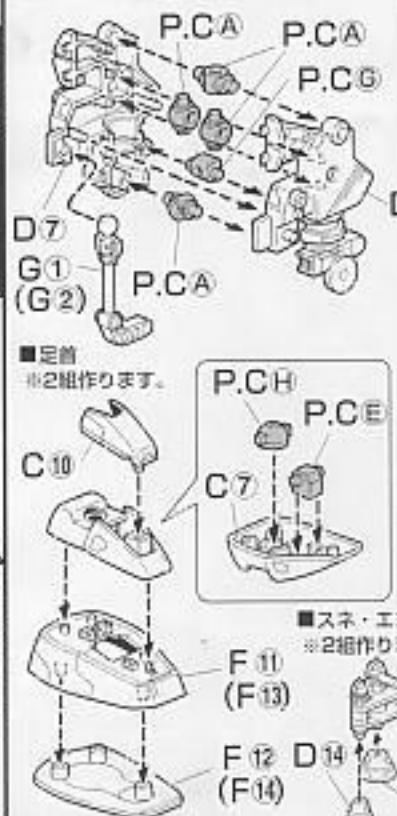
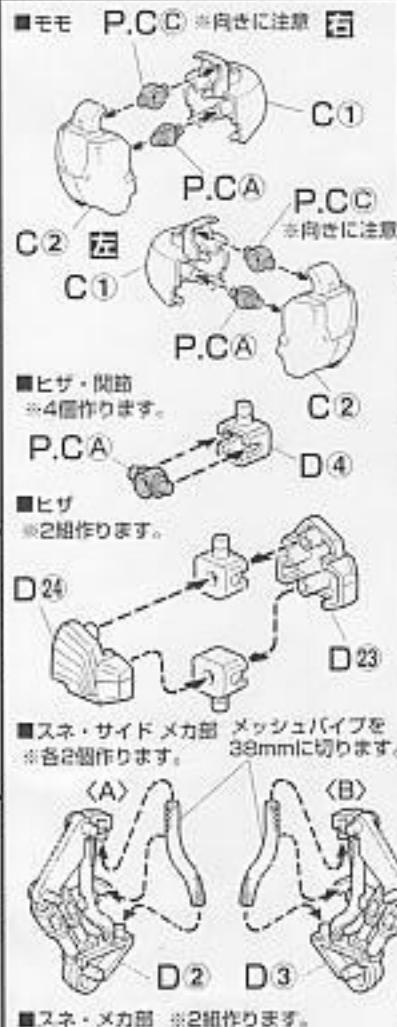
## MS-14S Snap Shot

## Head & Arm Unit

## Leg & Weapons

## Body

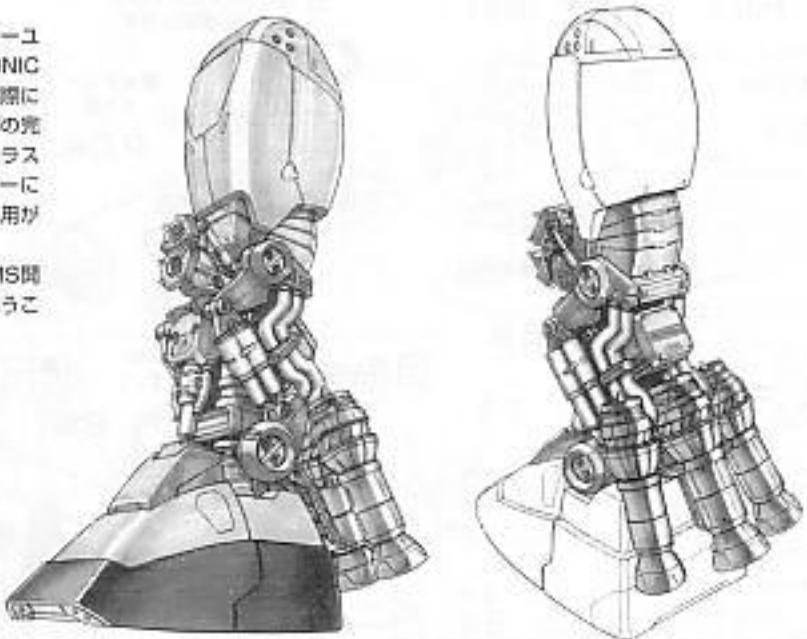
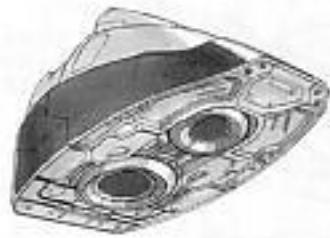
## Final Assemble & Parts List



## LEG PARTS

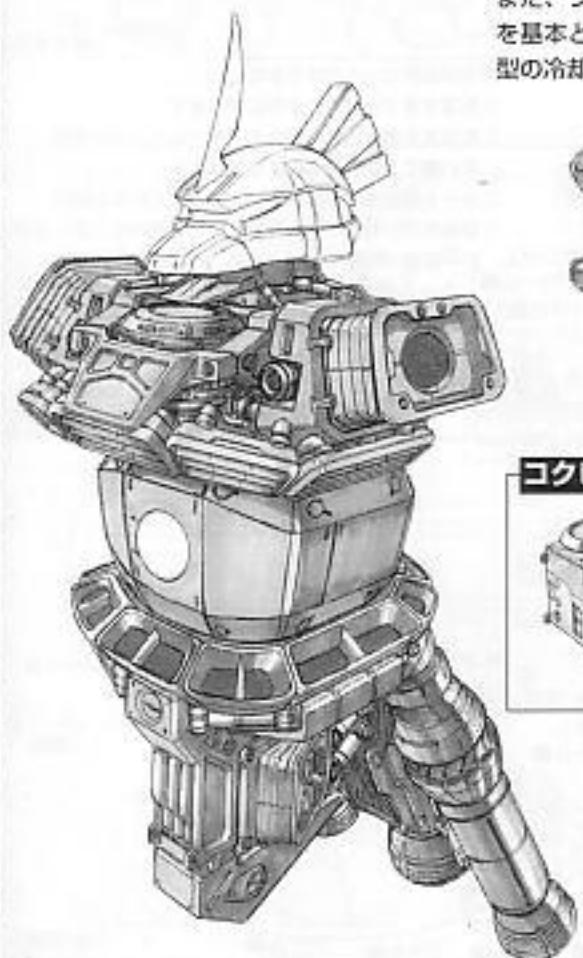
06R系の直系ともいえるゲルググは、R系と同様、脚部全体を巨大なバーニアスラスター単位と考えている。また、06R-2型での実戦データをもととして、さらなる高性能化が計られている。

ゲルググの脚部に装備されるバーニアスラスター単位は、当初、MS-11用に開発されていたZEONIC社製部品がそのまま流用される予定だったが、実際にそのユニットは06R-2型に使用されてから機体の完成までの間に改良が加えられることになった。スラスター総推力の向上のため、腰部スカートアーマーに09R系のZIMMAD社製バーニアのノウハウの採用が決定し、改めて共同開発されることになった。このことからも、ゲルググは事実上、公園裏のMS開発のノウハウを秘めているといふことができる。

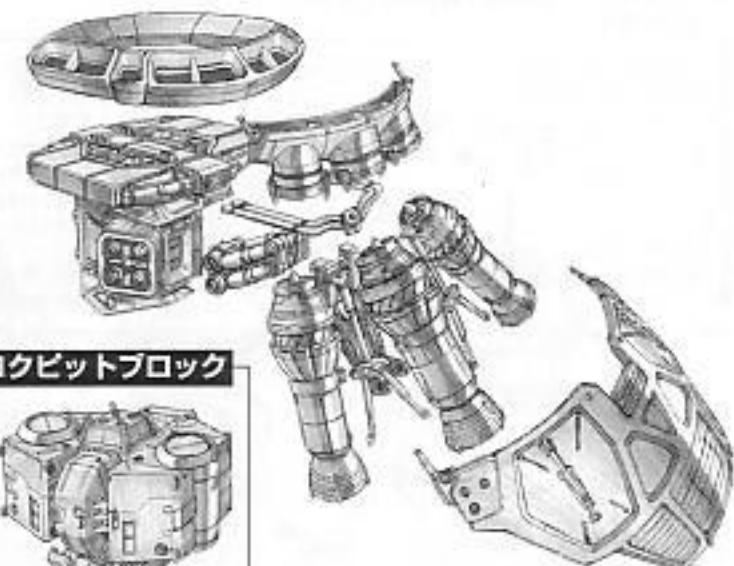
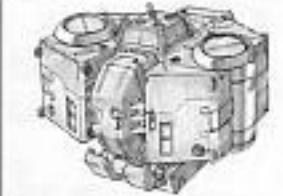


## BODY MODULE

ゲルググのボディモジュールには、ザクとの最も大きな差異が存在する。まず、コクピットブロックと主動力炉の配置が抜本的に見直されている。また、ジェネレータは水陸両用MS、あるいは06R-2型に採用された機種を基本とし、それまでのMSとは桁違いの出力を持っている。さらに、新型の冷却装置を開発し、ビーム兵器の連続使用を可能としている。



コクピットブロック



ゲルググの基本構造は、通常のRXタイプに似て、ボディモジュールを大きく三つのブロックに分割している。これは機体の運動性を高めるためにも有効であったが、実際には、パイロットの生存性を高めるために採用された構造であった。

さらに、ボディの分割構造は、機能上の問題ばかりでなく、生産性の面からも歓迎された。これによって、ゲルググは各部ごとに生産拠点を分散させて生産することが可能となり、「工業製品」としても非常に優秀なものとなったのである。

Explanation  
Parts name  
of MS-14S

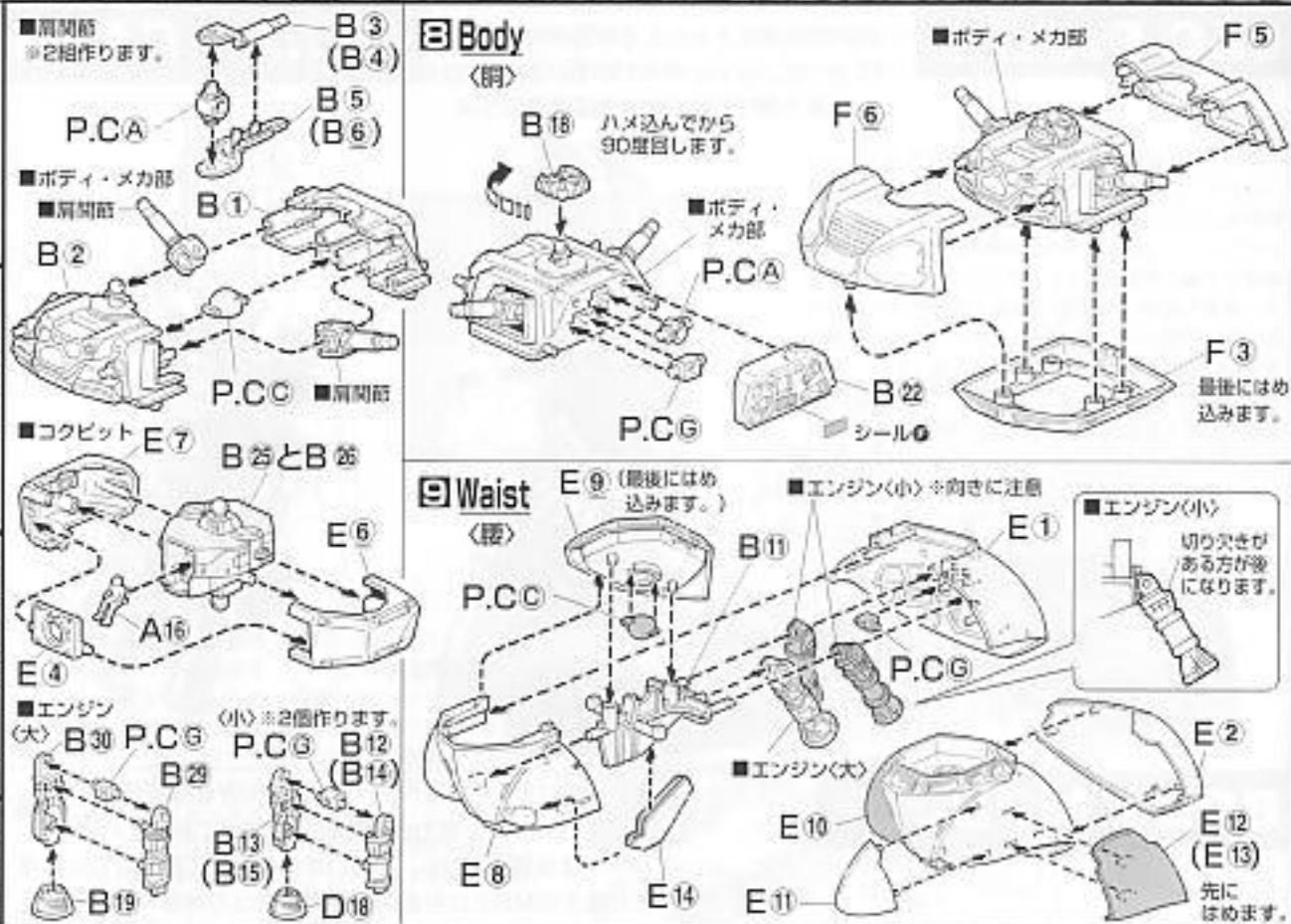
MS-14S  
Snap Shot

Head &  
Arm Unit

Leg &  
Body

Weapons

Final Assembly  
& Parts List

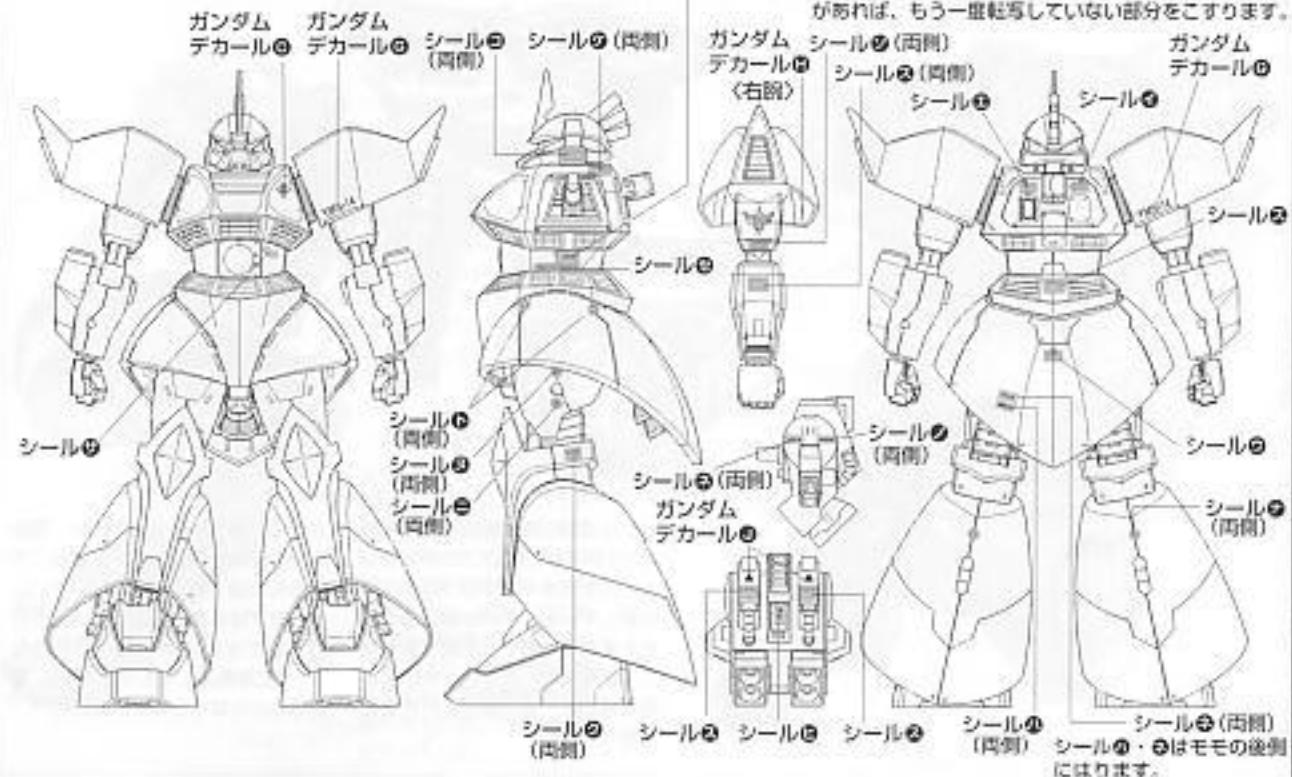


10 Seal  
シール

下の図を見て、ガンダムテカールやシールのはる位置を確認してください。

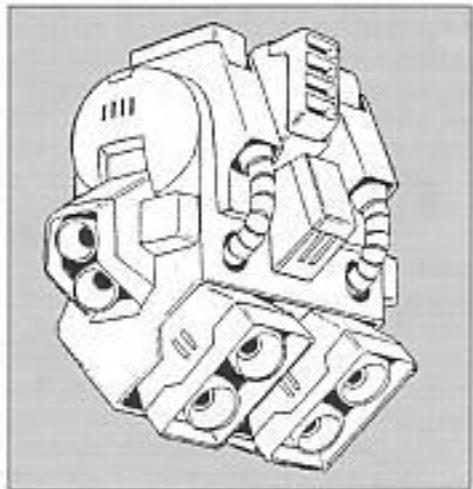
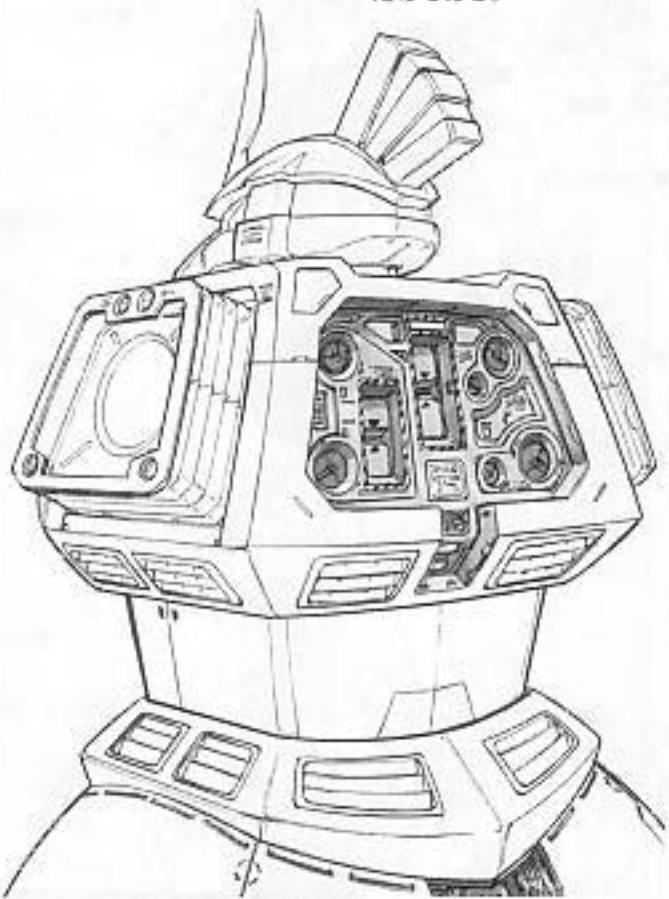
ガンダムデカルのはりかた。

- 1.転写するマークを大きめに切ります。
  - 2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
  - 3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分



# BACKPACK

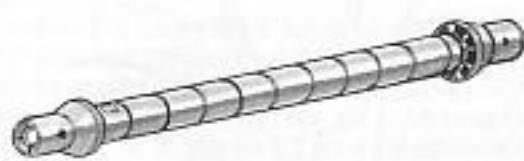
ゲルググは、ザクが持つ汎用性を、より容易に獲得することも目的としていた。各部のユニット化はその最たるもので、ザクの運用によって必要性が明らかになった各種オプションの換装なども、初期設定の段階で可能なように設計されていたのである。



# WEAPONS

公国軍が初めて量産に成功したMS用のビームライフル。一説にはプロトタイプとして、さらに長銃身のライフルが存在していると言われる。

ジオン公国が技術面で唯一、連邦に遅れを取っていたのは、ビーム兵器の小型化だった。このことが、MS単体に装備される攻撃力の差を生み、ひいてはトータルな戦力の違いを決定的なものとしてしまったことは否定できないだろう。



ゲルググ専用のビームサーベルユニット。両端からのビーム生成が可能で、薙刀（ハルバート）状のビームを形成することもできる。

ゲルググ専用のシールド。特殊なコーティングが施されているため、実体弾のみならずビーム兵器にも、ある程度耐えることができる。

Explanation  
Parts name  
of MS-14S

MS-14S  
Snap Shot

Head &  
Arm Unit

Leg &  
Body

Weapons

Final Assemble  
& Parts List

## Explanation

## Parts name of MS-14S

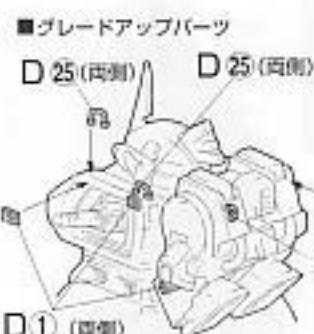
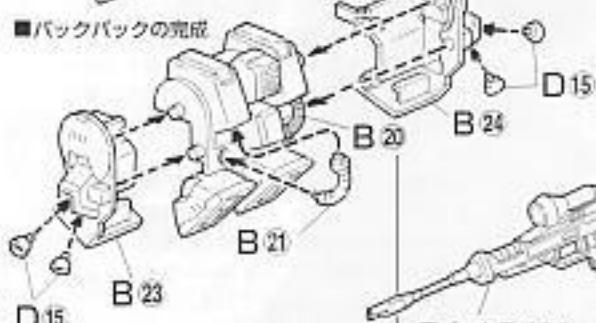
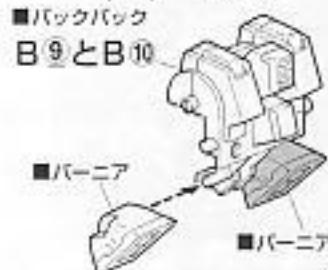
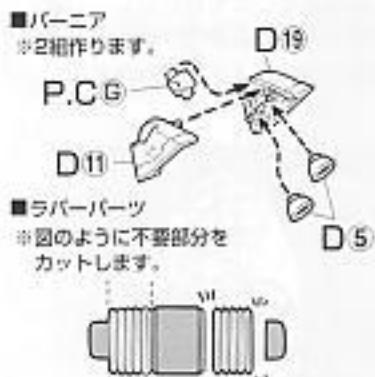
## MS-14S Snap Shot

## Head & Arm Unit

## Leg & Weapons

## Body

## Final Assemble & Parts List

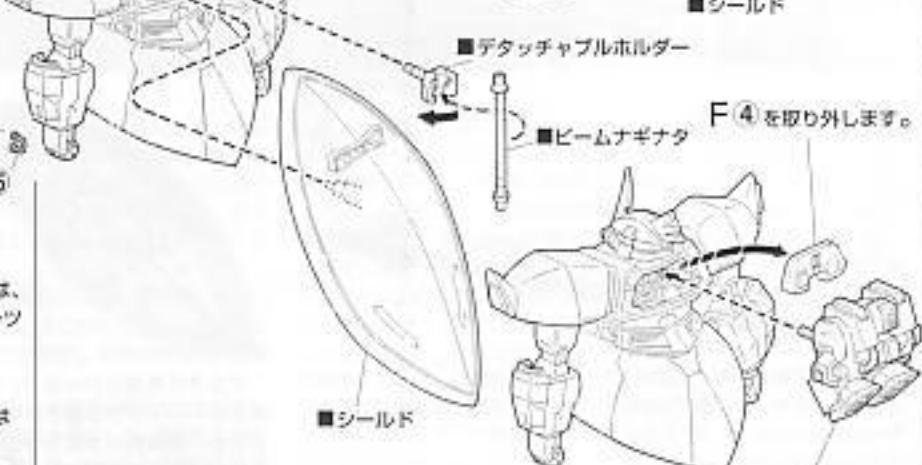
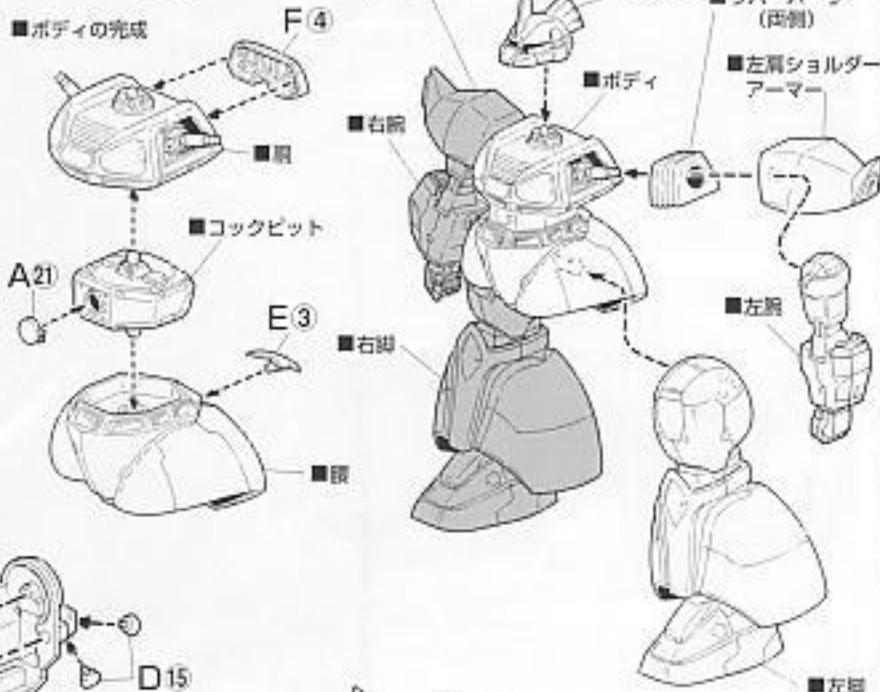


・完成品をよりリアルに仕上げたいかたは、上の図を見て、ディティールアップパーツ D1, D25を接着してください。  
(上の図は一例です。)

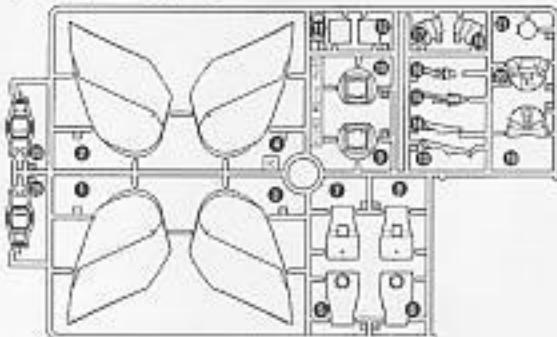
・あまついたシールや、ガンダムデカールは好きなところに、はってください。  
※A16は、お好みの場所にかざってください。

## II Final Construction

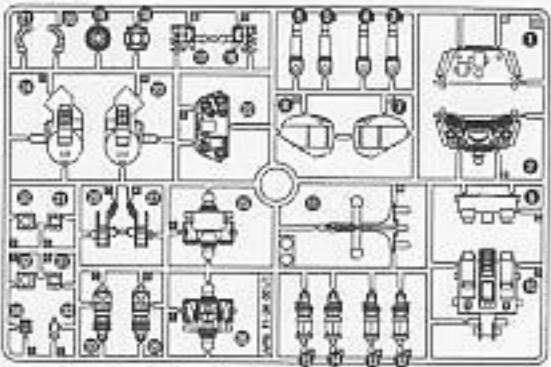
〈完成〉



## パーツリスト A/パーツ



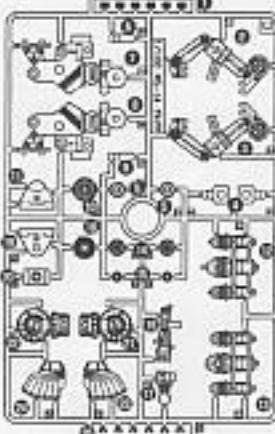
## B/パーツ



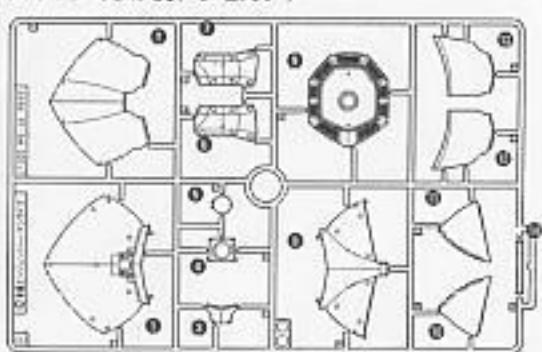
## C/パーツ (2枚)



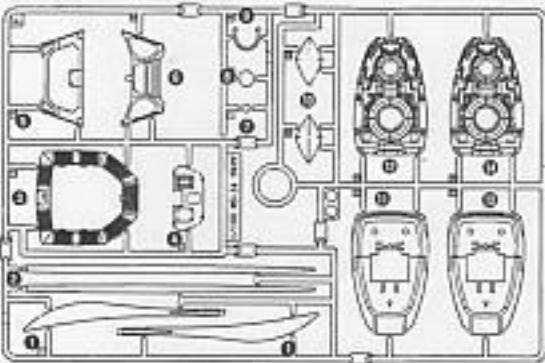
## D/パーツ (2枚)



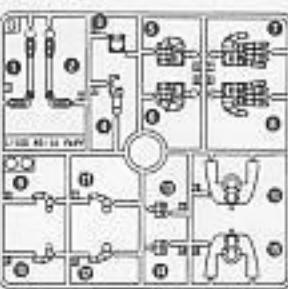
## E/パーツ (●は使いません。)



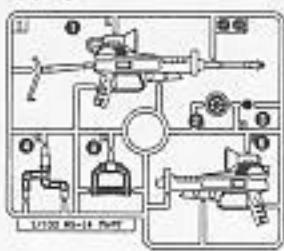
## F/パーツ



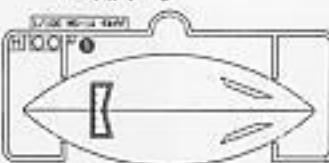
## G/パーツ



## H/パーツ



## J/パーツ



## K/パーツ



## PC-111 (2枚)

A…5個 B…4個 D…1個 F…2個  
H…2個 I…2個 J…2個は使いません。

マーキングシール…1枚 ガンダムデカール…1枚  
メッシュパイプ…2本 ラバーパーツ…1個

## 《お買い上げのお客様へ》

商品についてお気づきの点がございましたら、お客様相談センターまでお問い合わせください。また、部品をこわしたり、なくした人には実費にてお分けします。「部品注文カード」に必要な部品の番号・数量をはっきり書いて切り取り、普通郵便または定額小荷物で下記までお申し込みください。代金は部品代(1個40円×個数)+郵送料(120円)+為替手数料(金額によって異なります)です。為替証書は無記入(白紙)で同時にください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。(ラバーパーツは200円です。)

■申し込み先 (株)バンダイ静岡工場 お客様相談センター・部品係  
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

1996.12/T-ON

部品注文カード 55164-3000  
1/100SCALE MGシリーズ  
MS-14S ゲルググ (改)

必要な部品の番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む)にわたくしなくした

部品の注文は「普通郵便」か「定額小荷物」でお願いいたします。  
'96.12



協力：ホビージャパン



ジオン公国軍 汎用モビルスーツ 初期生産型

MS-14S 「ゲルゴグ」

シャア・アズナブル大佐機

1/100SCALE マスタードラゴン

**MS-14S GELGOOG**  
CHAR AZNABURU C. AZNABLE'S CUSTOMIZE MOBILE SUIT

Scanned by Dalong.net